



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番
97.2.7 No. 4543

全組合員に集まる！ 定期委員会に集まる！

全ての組合員のみなさん！
二月一九日に開催される第三七回定期委員会への圧倒的結集を訴えます。

昨年第二三回定期大会以降、動労千葉は正念場の国鉄闘争勝利に向けて、全組合員の力を結集して恒常的なストライキ体制を堅持し、危機にたつJR体制打倒へ闘い、そして、国鉄・安保・沖縄闘争の高揚のなかから、大失業と戦争の時代をはね返す労働運動の新しい潮流をつくるべく奮闘してきました。

そして今、九七年の決戦を迎えています。「明治維新」「敗戦」につぐ日本近代史上三番目の社会の根本的な変革期に直面しているなかで、労働組合として、労働者として、「どう闘い」「どう生きるのか」が問われています。

今定期委員会の大成功をかちとることをおとして、われわれをとりまく情勢をはつきり見据えきり、それにふさわしい闘う方針を打ち立てよう！

三月の闘い

定期委員会がかちとるべき課題の第一は、「分割・民営化十年」という状況をみすえつつ、佐倉機関区廃止阻止を最大の闘いの課題として三月ダイヤ改阻止へ総決起する体制をつくりあげることです。

この攻撃は、二進も三進もいかないJR貨物の経営破綻を背

景として、「国鉄改革」が大失敗に終わった犠牲をあくまで労働者に転嫁しようとする矛盾だらけのものです。

貨物をめぐって、この一年間、様々な問題が山積します。こうした全体に道筋をつける闘いとしても、また、JR東において、幕張電車区で、構内と仕業の融合化など新たな合理化攻撃が画策されています。今次ダイヤ改阻止闘争を、分割・民営化十年を向えるにふさわしいものとして展開することです。

かちとるべき第二の課題は、日経連の「ベアゼロ」、連合の屈服を突き破り、そして、膨大な首切り、労働法制の解体、社会保障制度の解体攻撃である、橋本内閣の行革・規制緩和と対決する第一段として、九七春闘を主力ストライキで闘う体制をつくりあげることです。

三月の闘い

第三の課題は、今年こそJR総連解体の年へ、全組合員が火の玉となって闘う方針を確立することです。

JR総連・革マルは、組織的危機が進行し、その唯一の出口を絶望的な国労解体方針に求めています。この機をのがさず、解雇撤回・清算事業団闘争の勝利、あらゆる差別・選別粉砕へ、JR総連・革マル打倒で、国鉄闘争勝利の大きな展望を切り開こう。

第四の課題は、この一年間の闘いを通して、国鉄闘争と安保・沖縄闘争の高揚のなかから、情勢を転換させてゆく「労働運動の新しい潮流」の出発点、と言えるような状況をつくりあげることです。

二―三月、九七春闘を「安保・沖縄、行革春闘」という位置付けて闘い、五月一四日に三千名の米軍用地使用期限切れを迎え、四―五月、沖縄闘争が焦点化します。第三次安保・沖縄闘争を実現することです。

そして、秋の全国労働者総決起集会へ、闘う労働運動の荒々しい復権をかちとろう！
第三七回定期委員会にあつまろう！

家族会総会に集まろう！

動労千葉家族会は、十年前、国鉄の「分割・民営化」という大きな嵐の中で結成され、今年で結成十周年を迎えます。

国鉄「分割・民営化」も十年目の正念場をむかえるなか、我々動労千葉が不屈に闘い抜いて行けるのも、家族会の支えがあったことからです。

家族会では、来る二月十六日に、第九回の総会とあわせて、結成十周年記念レセプションを

動労千葉家族会 結成十周年記念レセプション

- 二月十六日(日)午後一時
- 千葉県観光物産センター

- ▼ 家族会第九回総会と水野さん(勝浦市議)のお話し
- ▼ 会食・抽選会など。

